

F P まつもと通信

ちょっと得する「お金」や「資産形成」の話題をお届けします。

ご挨拶

パリオリンピックでは、多くの日本人選手の活躍に元気づけられた方も多かったのではないのでしょうか。3年前の東京オリンピックは無観客でしたがやはり観客がいると盛り上がり違いますね。

さて、9月は台風シーズンの本番を迎えます。近年、気候変動の影響で台風の大型化や集中豪雨が増加傾向にあります。

風水害は事前に準備ができる災害です。備蓄、避難経路の確認、家族との連絡方法など、しっかりと事前に備えをしておきましょう。



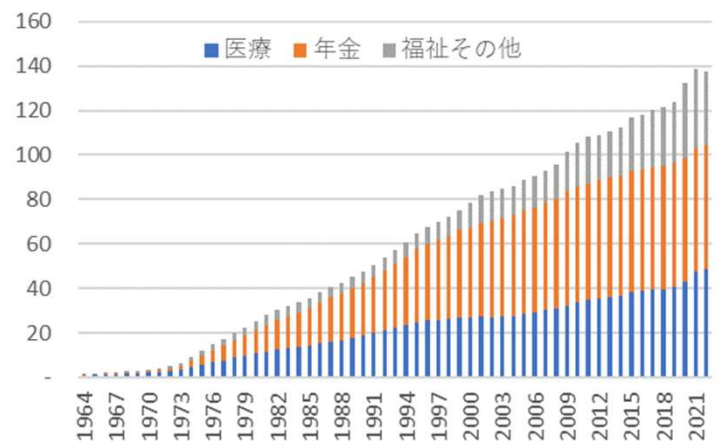
今月号のちょっと気になるお金のコラム

パリオリンピックでは日本選手がたくさんのメダルを獲りましたね。ところで金メダル一つのコストはいくらぐらいかご存知ですか？

社会保障給付137兆円

国立社会保障・人口問題研究所は7月に、2022年に支払われた社会保障費が137兆8000億円だったことを公表しました。前年度から約9000億円減少しました。減少の要因は、新型コロナ対策の雇用調整助成金や子育て世帯向けの給付金の減少によるものです。一方で、医療や年金は高止まりの状態です。

下図は1964年からの推移です。



絶対額の伸び以上に気になるのが、経済規模に占める社会保障費の割合です。1960年代にはGDPに占める社会保障給付費の割合は4%程度でしたが、2022年には24.33%に達しています。今後も同様の傾向が継続すると予想されています。

給付対象の見直しや給付年齢の引き上げなどが議論されることを踏まえての準備が必要になるのではないのでしょうか。



F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250

090-8741-7358

info@fp-matsumoto.com

<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勤める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

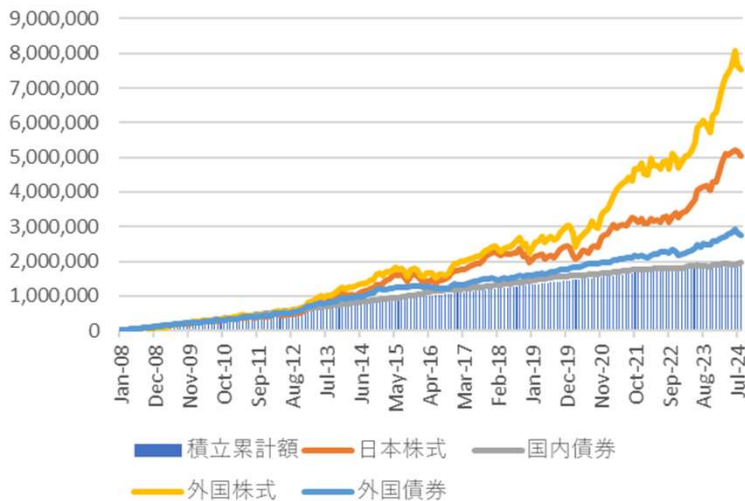
下図表は2008年1月から積立投資をした場合のシミュレーションです（MS社インデックスファンド基準価額データを利用）。図①は国内外の株式・債券の種類ごとの積立投資の推移を表しています。図②は外国株式ファンドと外国債券ファンドに積立投資をした場合の積立開始時期による成果の違いを表しています。この2つのグラフを見ると、確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切であることがわかります。

投資期間に応じた資産配分：積立期間が長い場合には株式の割合を多く、まとまった資金の受取予定が近い場合には株式の割合を少なくする

大幅に値下がりした場合：積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する

長期継続する：値動きや値動きを解説するニュースに惑わされず長期継続する

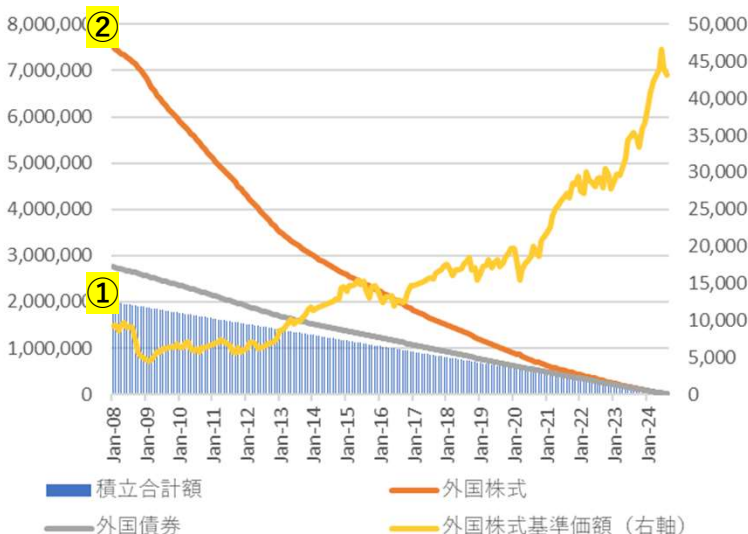
① アセットクラスごとの積立投資の推移



	Jun-24	Jul-24	Aug-24
積立累計額	1,980,000	1,990,000	2,000,000
日本株式	5,206,604	5,186,554	5,044,443
国内債券	1,911,439	1,918,794	1,950,777
外国株式	8,086,913	7,644,091	7,518,189
外国債券	2,916,150	2,818,983	2,755,721

2008年1月からの積立投資の推移です。株式は値動きは大きい一方値上がりも期待できません。債券は値動きは小さく値上がりも小さいことがわかります。従って長期の積立では株式をメインに、まとめて取崩す予定がある場合は株式の割合を少なくします。

② 積立開始時期ごとの積立合計と評価額



2008年1月に始めた外国株式への積立投資の合計額①200万円（青棒）は2024年8月に②751万円（オレンジ線）、約3.75倍になりました。グラフの左の方は積立合計（青棒）に対して現在の評価額（オレンジ線）が大きく上の方に離れているのに対しグラフの右の方はその差が小さくなっています。つまり投資の成果は概ね積立期間に連動していると考えられます。

外国株式に10年（120万円）積立をした場合の最大値、最小値、平均値は下表のようになりました。

最大	2,975,185	2014年7月	～	2024年6月
最小	1,747,373	2010年4月	～	2020年3月
平均	2,341,118	データ数：79		

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

8月は暴落後急反発

	日経平均		NYダウ		ドル円
Jun-24	39,583.08	2.85%	39,118.86	1.12%	160.84
Jul-24	39,101.82	-1.22%	40,842.79	4.41%	149.98
Aug-24	38,647.75	-1.16%	41,563.08	1.76%	146.16

8月の株式市場は月初に令和のブラックマンデーと言われるほどの下落をしましたが、その後持ち直しました。

NYダウ平均株価は経済指標の改善や利下げ期待から最高値を更新しました。一方日経平均株価は急速に反発したものの円高等がマイナス材料となり、小幅安で8月の取引を終えました。

米大統領選挙、地政学リスク、利下げや景気ソフトランディングに傾いた期待が裏切られるなどにより、短期的には値動きが大きくなることもあるかもしれませんが長期の積立投資では短期的な値動きと値動きを解説するニュースに惑わされずに積立を継続することが大切だと考えます。

日経平均株価、過去最大の下落

8月5日に日経平均株価は過去最大の4,451円安、史上2番目の下落率でした。下図は日経平均株価の下落率ランキングです。

	年月日	日経平均終値	下落率	
1	1987.10.20	21910.08	-14.90%	ブラックマンデー
2	2024.08.05	31458.42	-12.40%	
3	2008.10.16	8458.45	-11.41%	リーマンショック
4	2011.03.15	8605.15	-10.55%	東日本大震災
5	1953.03.05	340.41	-10.00%	スターリン暴落

東日本大震災は3月11日でしたが、15日に放射線流出の危険性の報道により1日で10%を超える大幅下落となりました。3~5位は原因がはっきりしていますが、1位と2位は原因が不明確なのが特徴です。

ブラックマンデーの原因を調べてみると「米国が双子の赤字（財政赤字と貿易赤字）を抱える中、ドル安に伴うインフレ懸念が浮上したことが原因。さらにプログラム売買が、株価の下落を加速させた」とあります。

双子の赤字やドル安は突然起こったものではありません。株価が高値圏で下落を始めると、下がる理由を探して売りが売りを呼び、大幅に下落したようです。

先月の下落原因については「突然の日銀による金利引上げと米国金利引下げによる急激な円高による先物等のデリバティブ取引による売り先導」と説明されていますが、1日に10%を超える値下がり理由としてはピンとこないと感じるのではないのでしょうか。

株価は何で決まるのか？

大きな下落があったときに落ち着いて対応するためには、株価の決定要因は短期と長期では異なる、ということを理解しておくことが大切です。

短期の株価は需給関係で決まります。ニュースや値動きを見て、売りたいと思う投資家が多ければ値下がりし、買いたいと思う投資家が多ければ値上がりします。

長期の株価は企業の根源的価値（保有資産と利益）で決まります。お金や不動産などの資産をたくさん持っていたり、たくさん稼ぐ企業の価値は高くなります。したがって企業活動を継続し、利益を上げ続けていけば、いずれ株価は上がると期待することができるわけです。

短期的に値下がりをして心配になったときには、保有している投資信託の目論見書や運用レポートなどで投資先の企業を見てみましょう。投資信託を通じて株主になっている企業は、株式市場の日々の値動きにより事業を止めたりしそうですか？

日々の株式市場の値動きと長期的な企業の成長とは別のものであることがわかるのではないのでしょうか。

ちょっと気になるお金のコラム

金メダルの原価は？

パリオリンピックで日本は金メダル20個、銀メダル12個、銅メダル13個、合計45個を獲得し、海外開催のオリンピックでは金メダル数、総数とも過去最多と大活躍でした。

オリンピックのメダルはそれまでの努力の成果で文字通り「プライスレス」ですが、製造原価はどのくらいなのでしょうか？

イギリスの調査会社（オックスフォード・エコノミクス社）のコラムが興味深かったので紹介します

。
<https://www.oxfordeconomics.com/resource/economists-notebook-how-much-is-a-paris-olympic-gold-medal-worth/>

記事によるとそれぞれのメダルの材料は以下のようになります。

金メダル：6グラムの金でコーティングした523グラムの銀

銀メダル：525グラムの純銀

銅メダル：455グラムの銅、錫、亜鉛

これらの材料を同社が現在の金属相場で計算したところ、金メダル1,027ドル（約15万円）、銀メダル535ドル（約7.7万円）、銅メダル4.6ドル（約670円）となったそうです。

オリンピックメダルの価値はその材料費ではないことはもちろんですが、銅メダルの約670円は少し驚きですね。



メダルの報奨金は？

賞金のためにオリンピックに出場する選手はいないと思いますが、日本ではメダリストへの報奨金の支給と課税についての規定がスポーツ庁のホームページに記載されています。

	報奨金額	非課税上限額
日本オリンピック委員会（JOC）	金：500万円 銀：200万円 銅：100万円	上限なし
日本障がい者スポーツ協会（JPSA）	金：300万円 銀：200万円 銅：100万円	上限なし
JOC加盟団体	各団体による	金：500万円 銀：200万円 銅：100万円
JPSA加盟団体	各団体による	金：500万円 銀：200万円 銅：100万円

金メダルを獲得すると、JOC（日本オリンピック委員会）から500万円の報奨金が支給されます。また、報奨金制度がある競技団体の場合は、その団体の規定に従って追加の報奨金が支給されるようです。

例えば、卓球やバドミントンの金メダル報奨金は1,000万円だそうです。柔道や水泳は競技団体からの報奨金はゼロだそうです。

上限額を超えた金額や、上記団体以外からの報奨金は課税対象となります。前回の東京大会では、フェンシングの選手が所属企業から1億円の報奨金を受け取りましたが、この場合、住民税を合わせると税金は約5,200万円にも達します。

納税は国民の義務ではありますが、選手たちは日頃の練習はもちろん、遠征などに相当な費用をかけているのですから、もう少し税制面で優遇されてもよいと感じる人も多いのではないのでしょうか。

2026年の冬季ミラノ・コルティナ大会、2028年のロサンゼルス大会での日本選手の活躍も期待したいですね。